

NASAで授業内容紹介

玉野高の藤田学教諭(53)が2月、米航空宇宙局(NASA)ジョンソン宇宙センターのスペースセンター・ヒューストンで開かれるワークショップで、「宇宙」を切り口に実践している授業内容を発表する。「飛行の安定性」について、紙飛行機を使って分かりやすく説明。渡米に先立って20日には、玉野高の2年

玉野高物理担当 藤田教諭

生約120人に英語で講義した。

物理を担当している藤田教諭は、2011年に引退した有翼型の宇宙船・スペースシャトルの写真をスライドに映しながら、飛行が安定するメカニズムを紹介。生徒に事前に配ったA4判の紙で紙飛行機を折ってもらった。

生徒たちは折った紙



玉野高生に米国で発表する授業内容を英語で説明する藤田教諭

紙飛行機使い「飛行の安定」テーマ 来月ワークショップ

飛行機の重心の中心点をクリップで挟み、結び付けたひもを持って頭上をぐるぐると旋回させると、機体は不安定な揺れもなく安定して飛行した。若尾道元さん(17)は「身近な紙飛行機という素材で、授業は分かりやすかった。米国でもきつと伝わるはず。頑張ってきてほしい」と応援する。

スペースセンター・ヒューストンが主催するワークショップには、宇宙航空研究開発機構(JAXA)が毎年、発表する教諭らを国内から公募し、2人程度を派遣する。ワークショップには米国だけでなくカナダ、欧州などからも500人以上の教育関係者が集うという。

数年前から紙飛行機を使った授業を実践する藤田教諭は「紙1枚あれば、生徒たちに物理の面白さを教えられると思って考えた授業。米国の最先端の教育に触れ、成果を地域に還元したい」と意気込んでいる。

(民直弘)

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。